

受検番号

氏名

※

切り取らないこと

令和九年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

※

高等学校 書道 解答例

15 点
(各 3)

一

(一)	古典をよく学んだ上で、手本の古典を見ないで書くこと
(二)	筆跡の輪郭を写し取り、中を塗って複製する方法
(三)	印を彫るときに、印を挟んで固定する台
(四)	肘を上げ、腕を机から離して書く構え
(五)	一九〇〇（明治 33）年

17 点
(3×5, 2)

二

(一)	① 空海	② 嵯峨天皇	③ 藤原行成
(二)	③ 白氏詩卷	④ 伊都内親王願文	(三) ③

8 点
(3, 2, 3)

三

(一)	王羲之	(二)	B
(三)	蘭亭序の臨模や拓本として伝えられてきたものの一つで、巻首と巻末に神龍という印が半分ずつ残っている。 馮承素が双鉤顛墨して複製したとされる。		

11 点
(2×4, 3)

四

(一)	① 秦	② 始皇帝	③ 小篆	④ 藏鋒	(二) 泰山刻石
-----	-----	-------	------	------	----------

9 点
(各 3)

五

(一)	前漢
(二)	① 肉筆の書である前漢の木簡を教材とすることで、隸書の筆使いを詳しく観察させるとともに、強調された波磔を意識して伸び伸びと臨書させる。 ② 木札に臨書し、麻紐で綴じること、実際の木簡を再現する作業をグループで行う。紙に書くのとは違った筆触が味わえ、当時の用具・用材に思いをはせることができる。また、封泥で綴じること、篆刻の学習との関連を図る。

(裏面に続く)

23 点
(3×3, 7, 7)

六

(一)		(二)
① 生活	② 伝統	① 高村光太郎
② 彫刻家である作者による用筆・運筆から生み出される線質と、行構成・連綿・余白を生かした全体構成に着目させ、その表現効果や風趣との関わりについて理解し、書の価値の幅広さを味わうことで、生徒がこれらの名筆を生かして自分の表現を工夫することにつなげる。		
③ 作者とその経歴等について理解する。 ↓ 作品を鑑賞し用筆・運筆の特徴を確認する。 ↓ 構成上の特徴を挙げさせ、自己の表現に生かすよう促す。		

17 点
(2, 15)

七

(一)	(二)
d	教材名… (例) 本阿弥光悦書「鶴下絵三十六歌仙和歌巻」 本時の目標… (省略) (採点基準) ① 条件 ・「共通事項」イを踏まえた内容になっているか。 ② 目標の設定 ・育みたい資質や能力を高めるような目標になっているか。 ③ わかりやすさ ・生徒に伝えたいことが正確に表されているか。 ・生徒が題材のよさや美しさを感じ取ったり考えたりする内容になっているか。 ④ 興味をもたせる工夫 ・表現と鑑賞を往還させる活動を取り入れるなど、生徒が興味をもてるようなしかけをしているか。 ⑤ 生徒が ICT を活用する場面の設定 ・適切かつ効果的に設定されているか。